

3. 4 統括委員会によるプロジェクト全体の運営

(1) 業務の内容

(a) 業務の目的

サブプロジェクト①に、3つのサブプロジェクトのメンバーからなるプロジェクト全体を統括運営する統括委員会事務局を設け、サブプロジェクト相互の協力・連携を図り、研究成果の社会還元への推進に努める。研究の中間成果も含めて、広く研究の成果を社会に説明すること等を通じて、社会の科学リテラシーや防災リテラシーの向上に繋がる方策を検討して、実践する。さらに、本研究計画で主として対象とする首都圏での成果を、中京圏、京阪神圏等、脆弱性を克服すべき多くの都市にも広げる方策についても検討する。

(b) 平成25年度業務目的

- 1) サブプロジェクト相互の協力・連携を図るため、3つのサブプロジェクトの研究者等からなるプロジェクト全体を統括運営する統括委員会を設ける。統括委員会を2回程度開催して、プロジェクト全体の進捗を管理するとともに、サブプロジェクトの研究の進展に対する相互理解を深め、サブプロジェクト間の協力・連携による発展的研究成果の創出に努めるとともに、研究成果の社会還元を推進する。
- 2) 都市の地震被害評価や巨大な地震が都市を襲うことを想定した激甚災害の軽減方策についての研究を推進するため、各サブプロジェクトが開催する国内外の交流会等に参加し、地震防災研究に関する議論や交流を図る。
- 3) 平成25年度までの都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト全体の成果を活用促進するために、多くの人々に向けた中間成果の広報活動を企画する。

(c) 担当者

所属機関	役職	氏名	メールアドレス
東京大学地震研究所	教授	平田 直	

(2) 平成25年度の成果

(a) 業務の要約

- 1) サブプロジェクト相互の協力・連携を図るため、3つのサブプロジェクトの研究者等からなるプロジェクト全体を統括運営する統括委員会を設ける。統括委員会を2回開催して、プロジェクト全体の進捗を管理するとともに、サブプロジェクトの研究の進展に対する相互理解を深め、サブプロジェクト間の協力・連携による発展的研究成果の創出に努めるとともに、研究成果の社会還元を推進した。
- 2) 都市の地震被害評価や巨大な地震が都市を襲うことを想定した激甚災害の軽減方策についての研究を推進するため、各サブプロジェクトが開催する国内外の交流会等に参加し、地震防災研究に関する議論や交流を図った。
- 3) 平成25年度までの都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト全体の成果を活用促進するために、多くの人々に向けた中間成果の広報活動を企画した。

(b) 業務の成果

1) 都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会

平成 25 年 8 月 23 日及び平成 26 年 1 月 21 日に「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を開催した。各サブプロジェクトの研究代表者と担当者及び有識者から構成される統括委員会委員とオブザーバが出席し、サブプロジェクトごとに進捗状況について説明があった。これらの説明をもとに、他サブプロジェクトの研究の進展に対する相互理解を深め、サブプロジェクト間の連携や中間成果の広報活動などプロジェクト全体の運営について意見交換や総合的な議論を行い、プロジェクトを円滑に推進させた。

なお、統括委員会の議事録は、4.1 会議録に掲載した。

2) 国際ワークショップへの参加

地震防災研究に関する国際的な交流を図るため、平成 25 年 10 月 16 日に米国・ロサンゼルスで開催された交流会「VISES Workshop, Oct 16, 2013, SCEC Board Room, University of Southern California」及び 10 月 17 日に実施された ShakeOut に参加し、最新の地震防災研究に関する研究成果の発表と議論を行った。参加者数は 15 名（うち日本側からは他のサブプロジェクトも含めて 7 名）であった。プログラムを表 1 (P.178) に示す。

3) 中間成果の広報活動の企画

プロジェクト全体の成果を活用促進するために、多くの人々に向けた中間成果の広報活動を企画し、検討を行った。この企画の実務を行う実行委員会を組織した。実行委員会を平成 25 年 12 月 18 日に開催し、その後メール等を用いて企画を進めた。その結果、平成 26 年 5 月 14 日に東京大学伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホールで中間成果報告会を開催することにした。

(c) 結論ならびに今後の課題

「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を 2 回開催した。また、米国で開催された国際ワークショップに参加し、最新の地震防災研究について活発な議論を行った。中間成果の広報活動の企画を行った。

(d) 引用文献

なし

(e) 学会等発表実績

学会等における口頭・ポスター発表

発表成果（発表題目、口頭・ポスター発表の別）	発表者氏名	発表場所（学会等名）	発表時期	国際・国内の別
Seismic hazard and risk in the Tokyo Metropolitan	N. Hirata	VISES Workshop (ロサンゼルス)	2013 年 10 月 16日	国際

Area (口頭)				
Toward the construction of paleo- and historical large earthquake catalogs in and around the Tokyo Metropolitan Area (口頭)	Ishibe T., J. Muragishi, K. Satake, and N. Hirata	VISES Workshop (ロサンゼルス)	2013年10月 16日	国際

学会誌・雑誌等における論文掲載

なし

マスコミ等における報道・掲載

なし

(f) 特許出願, ソフトウェア開発, 仕様・標準等の策定

1) 特許出願

なし

2) ソフトウェア開発

なし

3) 仕様・標準等の策定

なし

(3) 平成26年度業務計画案

- 1) サブプロジェクト相互の協力・連携を図るため、3つのサブプロジェクトの研究者等からなるプロジェクト全体を統括運営する「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト統括委員会」を2回程度開催して、プロジェクト全体の進捗を管理するとともに、サブプロジェクトの研究の進展に対する相互理解を深め、サブプロジェクト間の協力・連携による発展的研究成果の創出に努めるとともに、研究成果の社会還元を推進する。
- 2) 都市の地震被害評価や巨大な地震が都市を襲うことを想定した激甚災害の軽減方策についての研究を推進するため、各サブプロジェクトが開催する国内外の交流会等に参加し、地震防災研究に関する議論や交流を図る。
- 3) 平成26年度までの都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト全体の成果を活用促進するために、多くの人々に向けた中間成果報告会の開催や広報物を作成し、ホームページへの掲載や希望者への配布を行う。

表 1 国際ワークショップのプログラム

VICES Workshop, Oct 16, 2013, SCEC Board Room, University of Southern California

09:00	Tom Jordan	Welcome
09:10	Ned Field	Overview of the Uniform California Earthquake Rupture Forecast, Version 3 (UCERF3)
09:30	Haruo Hayashi	Introducing MEXT urban resilience project
09:50	Jean-Paul Ampuero	Integrating theory and observations to understand the source of mega-earthquakes
10:10	Discussion	
10:40	Naoshi Hirata	Seismic hazard and risk in the Tokyo Metropolitan Area
11:00	Marine Denolle	Characterizing seismic amplification in Kanto using the ambient seismic field
11:20	Takeo Ishibe	Toward the re-construction of paleo- and historical large earthquake catalog in and around Tokyo Metropolitan Area
11:40	Discussion	
13:00	Jacobo Bielak	Toward the simulation of end-to-end mega earthquakes in urban regions, including topography and site-city interaction
13:20	Shingo Suzuki	Building urban resilience geo-portal online
13:40	Ramon Arrowsmith	High resolution topography applied to earthquake studies
14:00	Toshiro Tanimoto	The Millikan experiments and the cross-correlation technique
14:20	Tom Jordan	Comparison of NGA and CyberShake PSHA models for Los Angeles using averaging-based factorization
14:40	Discussion	
15:10	Keiko Tamura	Progress of Japan ShakeOut
15:30	Mark Benthien	Global update: Great ShakeOut earthquake drills
15:50	Munenari Inoguchi	Capability of micro-media service for effective disaster response and preparedness
16:10	Muneyoshi Numada	Development of disaster management system - Case study of Yabuki town, Fukushima prefecture
16:30	Discussion	